

其ノ二 將來戒ムベキ事項

0570

〔其ノ二、將來戒ムベキ事項〕

目次

一、	軍紀遅緩ニ依リ失敗セシ實例……………	(二五)
二、	攻撃精神ノ旺盛ヲ缺キ失敗セシ一例……………	(二五)
三、	攻撃精神旺盛ナラザル爲戦闘ノ效果ヲ逸シタル戦例……………	(二六)
四、	迅速ナル決断ヲ以テ勇進セザリシ爲 敵ニ殲滅的打撃ヲ與ヘ得ザリシ戦例……………	(二六)
五、	分隊長ノ指揮掌握不確實ノ爲 徒ラニ敵ヲ退走セシメタル戦例……………	(二六)
六、	事前ノ準備不十分ノ爲敵匪殲滅ノ機ヲ逸シタル戦例……………	(二七)
七、	戦闘準備不十分ノ爲敵匪ヲ逃走セシメタル戦例……………	(二七)
八、	敵ヲ撃退後又銃シテ失敗セシ戦例……………	(二八)

0571

- 九、警戒不十分ナル爲不覺ヲ取リタル戦例……………(五)
- 十、我が密偵ト敵密偵トノ共謀
ニ依リ不利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例……………(六)
- 十一、變装匪ヲ滿警ト誤信シ失敗セル實例……………(七)
- 十二、逮捕匪賊ニ押レ過ギ油斷
セシ爲兵器ヲ奪ハレントシタル例……………(八)

0572

一、軍紀遅緩ニ依リ失敗セシ實例

日時場所、 昭和九年九月中旬、林密線楊木林子。

兵員任務、 鐵道建設援護ノ任ヲ以テ某軍曹以下十五名。

當日分遣隊長ハ、豫メテ覺エシ自動車操縦ヲ愉快ニ利用センガ爲ニ、隣分遣隊ニ連絡ニ赴キ不在中、部下ハ好機來タレリトナシ、思ヒ思ヒニ附近ノ小川ニ魚釣リニ行キ、殘レル者ハ炊事關係者ニ三名ナリキ。

附近ニ潜在シタル匪賊ハ、密通者ノ斯ノ報告ヲ接受シ、滿鐵建設事務所ヲ急襲シ、附近ノ民家ニ火ヲ放チ悠悠退散セルモ、指呼ノ間ニアル分遣隊員ハ處置ナク、甚ダ面目ヲ失ヒタリキ。

二、攻撃精神ノ旺盛ヲ缺キ失敗セシ一例

日時場所、 昭和九年八月上旬、岡佳線古城鎮。

任務兵力、 鐵道建設援護ノ爲准尉ヲ長トセル二十名。

當日例ノ如ク測量掩護ノ爲早朝出發。上等兵以下五名ヲ路上斥候トシテ、四〇〇米前方ヲ前進中、草深キ濕地ノ一路ノ中央頃ニ來レル時、騎馬匪數名ト遭遇セリ。道路以外ハ行動不能ナルニ依リ、双方共周章狼狽

0573

攻撃スルコトナク、兩側ノ山ニ退キテ對峙シ、匪ニ何等打撃ヲ與フルコトナク逃走セシメタリ。

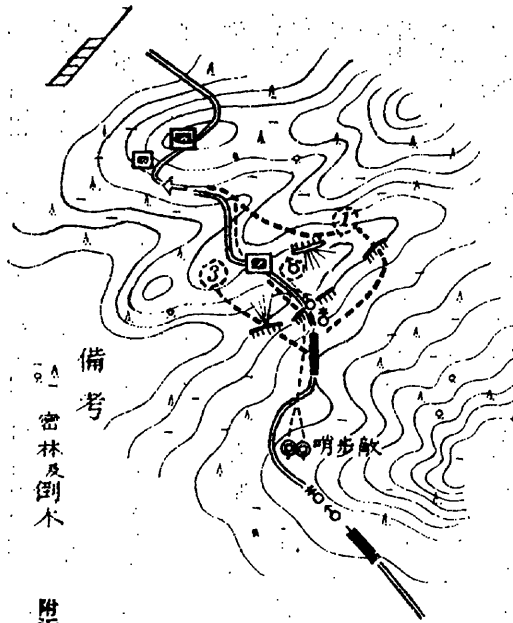
二六

三、攻撃精神旺盛ナラザル爲戰鬪ノ效果ヲ逸シタル戰例

○小隊ハ〇〇以下二十五名、昭和十二年三月十三日午後十一時頃、〇〇部隊交戦中ノ報ニ接シ、裝甲列車ヲ以テ出動シ、黃松甸分遣隊ニ於テ〇〇部隊ト連絡、翌十四日早朝出發ノ豫定ヲ以テ一泊、翌十四日午前六時出發、威虎嶺隧道附近ニ於テ落合ヲ管ノトコロ、已ニ該部隊ハ前進ノ後ナリ。依ツテ足跡ヲ辿ツテ前進中、午前十一時半頃ニ至リ、前方ニ銃聲起ル。小隊ハ直ニ駈歩ヲ以テ、漸ク午後二時頃、黃松甸西南方¹²¹¹高地山麓交戦地ニ到着ス。○〇部隊ハ戦傷者七名ヲ出シ、特ニ衛生兵戦死ノ爲、行動困難トナレリ。

小隊ハ該地ニ於テ晝食ヲ行ヒ、追撃ノ爲衛生兵一名ヲ殘シ前進ス。約一軒登リタル頃、敵歩哨發砲ス。依ツテ警戒シツツ前進スルニ、約五〇〇米程ノ所ニ於テ猛烈ナル敵ノ射撃ヲ受ク。直ニ小隊ハ敵ノ兩側ヨリ包圍攻撃ニ移レルモ、積雪腰ヲ没スル程ナルト、倒木交錯シタル密林地帯ノ爲、行動意ノ如クナラズ。加フルニ敵ハ銃眼ヲ設ケタル山寨ニ據ツテ射撃スル爲、攻撃最モ困難ナリ。小隊長ハ第三分隊ヲ左、第一分隊ヲ右ニ迂回セシム。此ノ際小隊長一躍前進セルトキ、第二分隊輕機彈藥手タリシ某一等兵ハ、小隊長ノ居リタル所ニ移動スルヤ、直ニ敵彈ヲ受ク。之、指揮官タリシ小隊長ヲ狙撃ノ爲、射彈ヲ集中シアリタルニ依ル。午後

0574



備考
密林及倒木

附近一帯ハ密林ニシテ倒木交錯シ加フルニ
積雪屢ヲ没スル程ニシテ行動頗ル困難ナリ

五時半頃漸ク山寨ヲ占領セルモ、各兵空腹ノ爲甚ダシク疲勞シアリ。依ツテ該山寨家屋ニ於テ夕食ヲ準備ス。夕食終リタル時ハ暮色追リ、加フルニ負傷者激シク苦痛ヲ訴フル爲、止ムナク山寨ヲ焼拂ヒ山ヲ下ル。後ニ至リテ見ルニ、該家屋ヨリ二・三百米登リタル所ニ二箇所ノ山寨ヲ設ケ、掠奪セル牛十頭ヲ收容シアリタルヲ他部隊ニ於テ、占領スルニ至ル。

0575

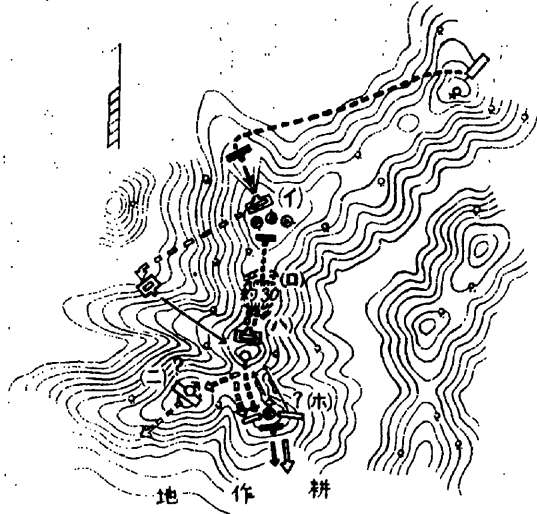
四、迅速ナル決斷ヲ以テ勇進セザリシ爲

敵ニ殲滅的打撃ヲ與ヘ得ザリシ戰例

- (1) 匪首青山以下約三十名ニシテ、匪首青山ハ鐵嶺縣第二區孤家子警察署員ナリシモ、昭和十一年五月二十八日、土匪金山好、東勝軍等ト通謀シ、孤家子警察署ヲ夜襲シ、小銃約五〇ヲ獲得逃走シ、以後約三〇ノ頭目トナリ、鐵嶺、撫順、清原縣境ニ蟠踞シ、暴威ヲ逞シツセルモノナリ。
- (2) 白旗寨ニ駐屯シアリシ鐵嶺(○)部隊ノ(○)小隊(○)曹長以下二十名、内六名ハ糧秣受領ノ爲鐵嶺へ前進中)ハ、四月十九日衛兵要員五名ヲ宿營地ニ殘置シ、匪情蒐集ノ目的ヲ以テ午前八時宿營地ヲ出發ス午後二時頃、鐵嶺撫順縣境、鐵嶺縣第二區白旗寨南方約二里、北大嶺附近ノ高地ヲ前進中、イハ高地山頂ニ五、六名ノ敵監視兵ヲ發見シ、其ノ附近ニ匪團アルモノト豫想シ、之ヲ殲滅スル目的ヲ以テ前進ス。雜木ヲ利用シテ、我が企圖ヲ秘匿シツツ、イノ敵ニ對シ前進中、敵前約一〇〇米附近ヨリ監視兵ノ射撃ヲ受ク。
- 敵ハ逐次其ノ數ヲ増加シ、射撃益々盛トナルモ、密集シアル雜木ノ爲敵影全ク認め得ザルヲ以テ、各個躍進ヲ命ジ、射撃スルコトナク、銳意前進ニ勉メ、イ高地ヲ占領ス。
- イ高地ヲ占領スルヤ、口ハヨリ猛射ヲ受クルモ、依然トシテ目標ノ發見困難ナルヲ以テ、一意前進ヲ

0576

戰間經過要圖



續行シ、ロ高地ヲ占領ス。

ロ高地ヲ占領スルヤ、ニ・ホ方向ニ猛烈ナル輕機
關銃ノ銃聲ヲ聞ク。此處ニ於テ長ハク敵ノ土匪ニ
アラズ共產匪ニシテ、最初ヨリ主力ヲ以テニ・ホ
高地ニ陣地ヲ占領シ、一部ヲ前方高地ニ出シテ抵
抗セシメ、我が兵力寡少ナルニ乗ジ包圍決戦ヲ計
レルモノト判断シ、地形上敵ノ術中ニ陥ルヲ願
慮シ、一時前進ヲセズ、敵情ノ搜索ニ勉メシモ、
峻峻ナル山ト雜木繁茂ノ爲、敵情ヲ詳ニ知ルヲ得
ズ、飛來スル彈丸ノ音ヨリ判断シ輕機ト思ヒシハ
爆竹ナルヲ悟リ、一舉ニホ高地ニ向ヒ突撃ヲ敢行

セルモ、敵ノ主力ハ逸早く南方ニ逃走シ、遂ニ長蛇ヲ逸シタリ。

(1) イ・ロ・ハヲ占領シタル勢ヲ以テ、ハニ停止セズ一舉ニホ高地ヲ占領セバ、耕作地ヲ逃走スル匪團ニ對シ、殲滅的打撃ヲ與ヘルヲ得タルナリ。匪團ハ之ヲ恐レテニ・ホニ於テ爆竹ヲ以テ欺騙的行動ヲ取り、

其ノ掩護ノ下ニ耕作地ヲ逃走セルモノナリ。

五、分隊長ノ指揮掌握不確實ノ爲 徒ラニ敵ヲ退走セシメタル戦例

(1) 京岡線明月溝南方約二十軒、神仙洞附近ニ於テ、匪首金成以下二百名、共產部落ヲ作り蟻踞中ニシテ、

度々沿線部落ヲ襲

ヒツツアルノ情報

ニ依リ、〇〇討伐

隊〇中隊之ヲ討伐

スルニ決ス。

(2) 〇中隊ハ昭和十年

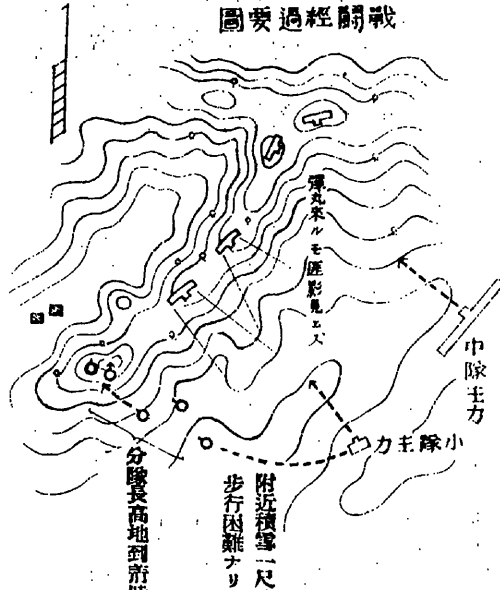
一月十四日午後七

時、明月溝ヲ出發、

午後十時明月溝ヨ

リ約十三軒ナル新

戦闘經過要圖



110

第四分隊長(〇〇上等兵以下五名)ニ
附與サレシ任務
第四分隊ハ斜左ノ高地ヲ領

附近積雪ニ尺余アリテ
歩行困難ナリ
分隊長前ノ敵ニ對シ射撃ヲ命
ズルモ彈藥ナク射撃不能、止
ムヲ得ズ筆銃ニヨリ射撃ス

分隊長高地到着時分隊ノ隊形第一彈藥手遠百五十米
分隊長線上ニ進出スルヤ約三十名ノ敵
ハ小隊主力方向ニ射撃中、匪賊ハ分隊
長ノ姿ヲ發見シ後方ニ退却ス

0578

場里ニ到着、宿營。十五日午前二時、同地出發、神仙洞ニ向ヒ前進シ、午前五時三十分神仙洞入口ニ於テ、山上ヨリ匪賊ノ急射撃ヲ受ケ、戦闘開始セラル。

(3) 第四分隊長タル〇〇上等兵ハ、小隊長ヨリ斜左ノ高地占領ヲ命ゼラレ、該地ニ至リ射撃ヲ開始セルモ、彈藥手著シク遅レタル爲、射撃ヲ繼續スル能ハズシテ遂ニ敵匪ヲ退走セシメタリ。

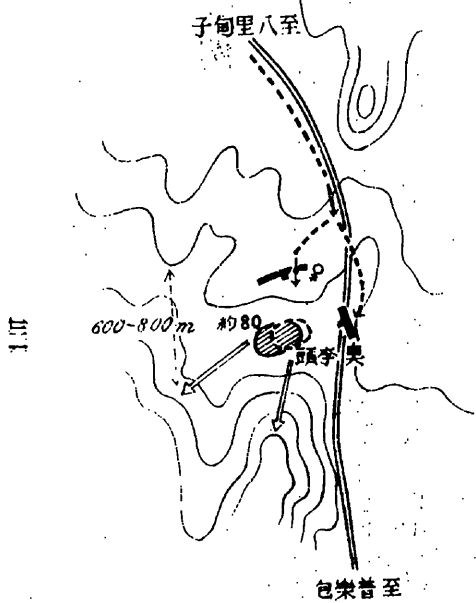
六、事前ノ準備不十分ノ爲敵匪殲滅ノ機ヲ逸シタル戦例

昭和十一年十二月二十日、桓仁縣八里甸子ニ宿營中ノ〇〇小隊(長〇〇中尉)ハ、同日午後二時、臭李頭ニ不詳匪約八十侵入蟠踞中ノ報ニ接シ、直ニ

出動、午前五時要圖ノ如キ隊勢ヲ取り、拂曉攻撃ヲ開始セルガ、時恰モ零下三十五度、MG・LGハ凍結ノ爲意ノ如ク射撃シ得ズ、其ノ半數ヲ逃走セシメタリ。

若シ事前ノ準備ヲ周到ニシ不凍液或ハ石油ヲ混合シ、或ハMG・LGノ保温ニ注意シ、機能ノ整備ヲ十分ナラシメ置キタラバ恐ラ

戰闘經過要圖



0579

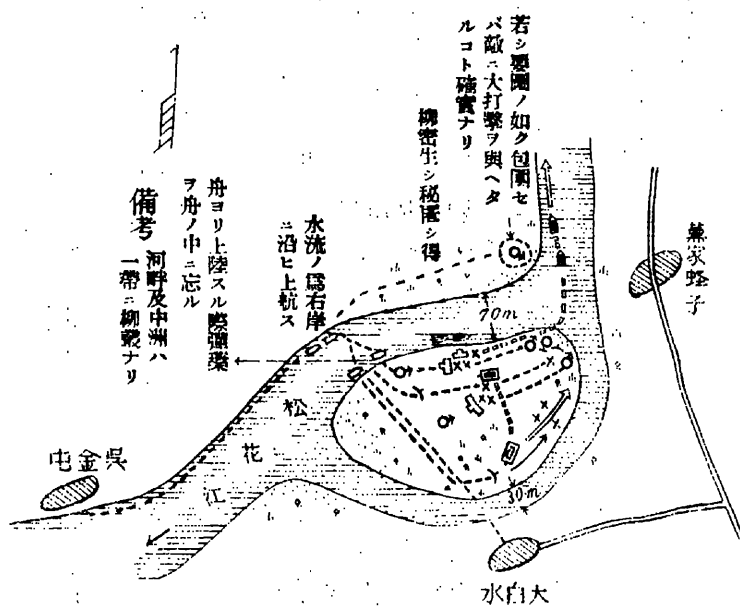
ク殲滅スルヲ得シナラン。

七、戦鬪準備不十分ノ爲

敵匪ヲ逃走セシメタル戦例

大白水楡樹、徳惠縣境ニアル松花江ノ中洲ニシテ、匪賊侵入ニ好適ノ地ナリ。今日迄數回匪情ヲ得テ出動（陸上ヨリ）シタルモ、匪影ヲ見タルコトナカリキ。七月五日午後六時頃、吳金屯ニ匪賊約八十名侵入セリトノ士民ノ報ニ接シ、松花江分遣隊〇〇中尉以下二十一名、日没ヲ利用シ二隻ノ舟ニテ出動、午後十一時頃該部落ニ到着、搜索シタルモ匪情ナカリキ。

依ツテ同夜吳金屯ニ宿營シ、七月六日午前四時出發、大白水ニ向ヒ上航中、敵匪ヲ發見スルニ至リ、直ニ上陸攻撃ヲ開始セルモ、擲彈筒彈藥ヲ舟ノ中ニ置キ忘レ、筒手ハ自己ノ携帶セシ三發ニテ戰鬪ニ參加シ、島ノ後端ニテ敵匪舟ニテ逃走スルヲ目撃シナガラモ、彈藥無キ爲舟ヲ擊沈スル能ハズ。輕機小銃ニテ射撃シタルモ柳叢ノ爲有效ナル射撃ヲ爲シ得ズ、又一分隊ヲ右岸上流ニ進出セシメタランニハ、殲滅的打撃ヲ與ヘシナランモ其準備ナク、遂ニ之ヲ逃走セシメタリ。



0581

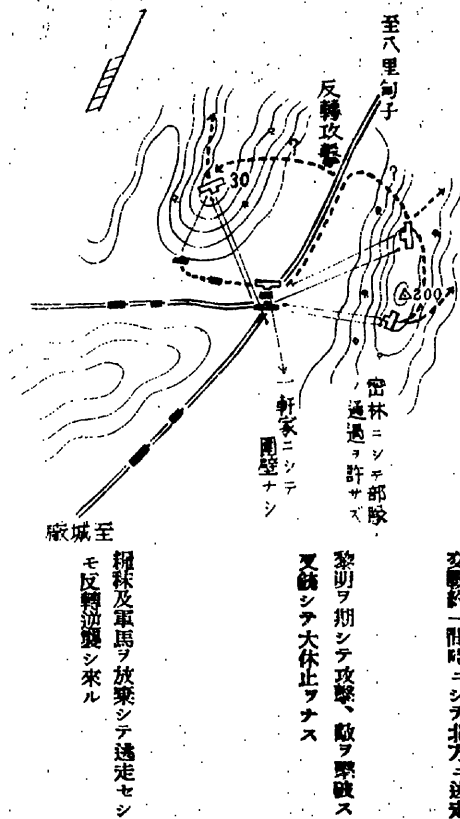
八、敵ヲ撃退後又銃シテ失敗セシ戰例

昭和九年九月二十五日、其中隊ハ黎明ヲ期シテ二方ヨリ攻撃ス。敵約百名ハ不意ヲ喰ツテ、軍馬三、食料品衣類多數ヲ放棄シテ北方ニ逃走セリ。

中隊ハ大休止（又銃シ朝食ヲナス）中、敵ハ三方面ヨリ反轉攻撃シ來レリ。交戦一時間ニシテ撃退セシモ、一時ハ解銃甚ダ困難ヲ生ジタリ。討匪中、部落附近ノ又銃ハ絶對ニ不可ナリ。

某所戰要圖

昭和九年九月二十五日午前八時半頃



0582

九、警戒不十分ナリシ爲不覺ヲ取りタル戦例

昭和十年五月二十五日、密山縣頭道河子部落附近ニ、匪賊約百五十名蟠踞中トノ、農民ノ情報ヲ受ケタル討伐隊ハ、約半個小隊（主力ハ残置ス）ヲ中隊長指揮シ、（人員三四名、内MG一分隊ヲ含ム）トラツクニ臺ニ分乗シテ二十五日朝七時ニ出發セリ。

匪賊ノ居リシ所ヨリ日本里ニテ五里餘ノ部落ノ入口ニテ下車シ、附近ノ農民ヨリ聞キシニ、日本軍ヲ發見シテ一時間前ニ逃走セリト。中隊長ハ前方約五百米附近ノ、城壁ノアル一家ヲ發見、部下ニ向ヒ、『今ヨリ前ノ部落ニ行キ、晝食ヲ爲シ歸還ス。』ト命令シ、自動車二臺ハ其ノ家ニ到着セリ。命令ニ依リ全員下車、家屋入口ニ集合ス。中ニ入ラント扉ヲ引キシニ開カズ。兵三名ハ中ノ状態ヲ確認メント、城壁上ニ頭ヲ出セリ。殘餘ハ入口ニ集結シ、用便スル者、又ハ煙草ヲ喫フ者等種々ナリ。

此ノ時突然左右ノ銃眼ヨリ一齊射撃ヲ受ケ、即時ニ中隊長以下二十八名ノ戦死傷者ヲ出セリ。

而シテ此ノ間各兵ハ一兵タリトモ射撃セルモノナシ。

之ヲ要スルニ、中隊長以下ノ其ノ部落ニ對スル警戒心不十分ナリシガ一大原因ナリ。

十、我方密偵ト敵密偵トノ

共謀ニ依リ不利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例

三六

吉林山部部隊獨立〇〇小隊（長以下四十名）ハ、昭和九年六月八日、寧安附近ニ暴威ヲ逞シウシ、且無智ノ住民ヨリ自衛團ノ如キ待遇ヲ受ケン、匪首東洋（部下三百トノ情報）匪討伐ノ爲、寧安出發後馬廠ニ入り
匪情ヲ蒐集ス。

六月七日夜、密偵ノ言ニ依レバ、東洋匪ハ我方部隊ノ進入ヲ知り、昨日八道溝方面ニ移動、目下同地ニ宿營中ノモノノ如シト。

小隊ハ一週間前寧安ヲ出發以來、毎日毎夜出動シタルモ、何等得ル所ナカリシ折柄トテ、小隊長以下一同勇躍、七日午後十時過ぎ馬廠ヲ出發ス。

行クコト五里ニ垂ントスルモ、人家モナク異狀ナシ。小隊長ハ再ビ密偵ヲシテ調査セシメタルニ、『後半里ナラズシテ山向フノ谷地ニ三軒家在リ。東洋匪ハ共處ヲ根據トシテ出沒ス。』ト、如何ニモ尤モラシキ答ニ一同力ヲ得、行ク内三叉路アリ。密偵ハ部隊ノ中央ニナリタル爲、斥候ハ右？左？暫シ立止リタル折、右百米ノ丈餘ノ藪中ニ三軒家在リテ、煙突ヨリ微カニ煙ノ立上ルヲ、漸ク百米附近迄認メ得ル位ノ夜明ケナレバ、頃ヨシトテ小隊長ハ、家宅搜索ノ目的ヲ以テ二ヶ分隊ヲ命ジテ包圍セシム。家ノ中ニハ何等執銃ノ匪賊ハ居

0584

ラザリシモ、起床スルト共ニ何物カ著物ニ入レタルヲ、素早ク斥候長認メ、通譯ヲシテ強ク詰問セシメシニ、
 現東洋匪ノ有力ナル部下ニシテ、匿シタルハ指揮用ノ木笛ナリ。

大獲者ヲ得タル喜ニ一同勇ミ立チ、

直ニ、撃滅セント、機關銃ハ卸下シテ

疎開前進、山ヲ上ルモ敵影ヲ見ズ。小

隊長ハ落膽シ、部隊ヲ集結、朝食ヲ命

ズ。夜ノ完全ニ明ケタル頃、前方歩哨

ノ「三百米前方谷地ニ三軒家有り」ト

ノ報告ニ、小隊長眼鏡ヲ出シ見ルモ別

段異状ナキ爲、念ノ爲機關銃ニ射撃設

備ヲ命ズルト共ニ、連行ノ一滿人ヲ偵

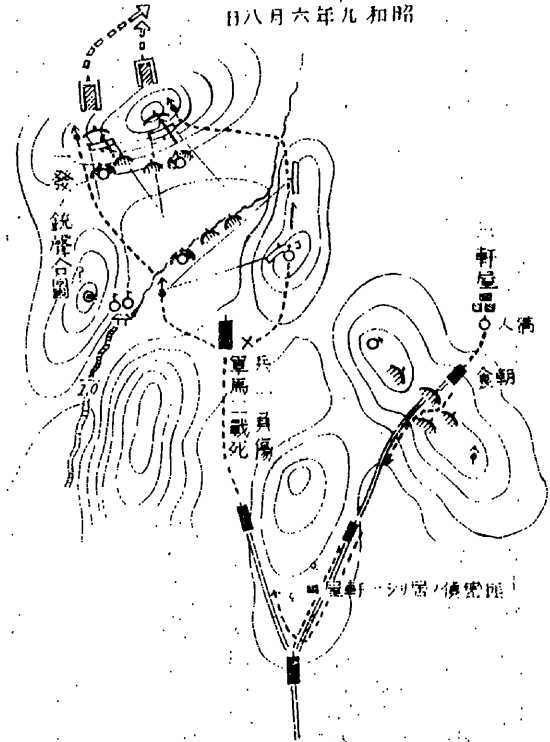
察ニ赴カシメタルモ人影ヲ認メズ。此

ノ間後馬廠ヨリノ密偵ト、一軒家ニテ

捕虜ノ匪密偵ト二人、何事カ頻リニ談

八道溝附近戰要圖

昭和九年六月八日



三七

0585

合セリ。

小隊ハ此處ヲ引上ゲ、一同力ヲ落シテ前ノ三叉路一軒家ニ歸リ、後馬廠ニ歸隊セントナシ休憩セリ。

休憩間密偵ヲ拷問セシニ、「左ニ行クコト半里ニシテ共産部落アリ。女、子供ニ至ル迄小銃若クハ拳銃ヲ所持シアリ。」ト。以前一軒家ニ到着ヨリ現在迄彼是二時間餘ヲ經過セリ。

兩側山ニ圍マレタル隘路ヲ行クコト五百米附近ニシテ、左側百米位ノ位置ニ一軒家アリ、小隊長ハ長以下二名ノ乘馬斥候ヲ派遣ス。突如一發、一軒家後方山頂方面ニ小銃聲ヲ聞ク。小隊ハ場所ガ場所、時機ガ時機トテ停止緊張ス。

小隊長ハ直ニ眼鏡ヲ取出シタルガ、意ニ介スルコトナク、更ニ前進ヲ起サントセル刹那、急敵ノ如ク敵ノ一齊射撃ヲ受ク。部隊ハ暫シ縱隊ノ儘伏臥ノ他處置ナシ。小隊長ノ戰鬥任務ノ附與モ、時間ニ餘裕ナク、小隊ハ殆ンド小隊長ノ以心傳心の疎閑、各分隊長ノ獨斷ニ依リ攻撃ス。匪ノ一齊射撃ヲ受ケシ當時、機關銃彈藥ヲ卸下セントセル故〇〇上等兵ガ下腹部ニ貫通銃創ヲ(軍馬二戰死)受ケタル爲、小隊ノ士氣ハ稍々沮喪ス。

百米程攻撃渡河(水深乳迄位)スルヤ、後方ヨリ射撃ヲ受ケ、機關銃分隊長〇〇軍曹ノ獨斷ニヨリ之ヲ占領、小隊ハ依然攻撃ヲ敢行ス。

匪ハ百八十名ノ大勢ト、我ヲ眼下ニ見下ス地形ノ利ヲ頼ミ在リシガ、我ガ軍ノ敢爲攻撃ニ依リ、動搖ノ微アルヲ目撃ス。(敵前二百米)

此ノ敵ヲ見ル迄、全く敵ノ陣地ヲ認メ得ズ。唯小隊ハ彈丸ノ音ニ依リ方向ヲ定メ、遮二無二前進シタルニ過ギズ。小隊ノ敵影ヲ認メ得ルニ至リ、頓ニ活氣ヅキテ一意前進ヲ敢行ス。

此迄、敵ハ山頂トノミ突差ノ場合考ヘ有リシガ、尙山腹ニ在リテ我ノ渡河頃迄頑強ニ抵抗セリ。

敵陣地ヲ占領セルハ午前十時ニシテ、攻撃ヨリ三時間ヲ要シタリ。曩ニ一軒家ニ到着、敵密偵ヲ捕虜セシ時、既ニ匪ト連絡シ、且三軒家前ニテ休憩ノ折、連行ノ滿人ト敵密偵ト協定、事實無根ノ共產部落アリト稱シ、我ガ軍ノ特徴タル攻撃ノ間ヲ利用シテ陣地ヲ急造シ、我ガ軍ヲ邀撃スルノ計畫ナリシヲ、戦闘終了後初メテ察知シタルモ時既ニ遅シ。

若シ彼ノ滿人ガ話シ合フ滿語ヲ了解シ得タルバ、或ハ其ノ舉動ヲ不審ニ思ヒ搜索ヲ密ニセバ、其ノ匪ノ計畫ヲ察知シ、敵ノ背後ヨリ迫リ、有利ナル戦闘ヲ爲シ得タルニアラザルカ。

十一、變裝匪ヲ滿警ト誤信シ失敗セル實例

黑河省瑯琊縣「南三龍」分遣隊服務中ノK軍曹ハ、昭和十一年十月二十八日午後十時頃、滿人警官(實ハ

變裝セル匪賊)ヨリ、口頭ヲ以テ、「四站」(分遣隊ヲ離ル約三軒)ナル部落ヲ匪首平康徳ノ率ユル約三〇ノ匪賊ガ襲撃シ、目下掠奪中ナリトノ報ヲ受ケタリ。

同軍曹ハ直ニ之ヲ電話ヲ以テ中隊長ニ報告、中隊長ノ命令ニ依リ部下五名ヲ殘置シ、十六名ヲ以テ該匪討伐ニ出動セリ。此ノ際件ノ滿警ヲ同行案内セシメツツ、午後十一時三十分頃「四站」ニ到着セリ。

K軍曹ハ部落ノ前方約三百米附近ヨリ、細心ノ注意ヲ爲シツツ近接セルモ、部落内ハ靜肅ニシテ何等ノ徵候ナシ。一同不審ニ思ヒツツモ油斷ナク前進シ、貧弱ナル城門ニ達セリ。此ノ時一同ハ突如自衛團ノ歩哨ヨリ誰何セラレタリ。

殺氣立チアル軍曹ハ、「憎キ匪賊ノ歩哨奴」トバカリ、夜目モ鮮カニ一突ノ下ニ此ノ歩哨ヲ刺殺セリ。

此ノ間件ノ滿警ハ何處トモナク姿ヲ消シタリ。一同之ニ氣付クコトナク唯敵ノ所在ノミニ心ヲ奪ハレ居リタリ。

K軍曹以下「敵ヨ何處」ト同部落内ヲ隈ナク探セド、匪賊ノ片影ダニナシ。滿警ハト氣付キシ時ハ已ニ其ノ姿ハ無ク、唯淡イ月ノ光ノ中ニ屍ト化シタル自衛團歩哨ノ姿アルノミ。同軍曹以下、「サテハ一杯喰ハサレタカ」ト初メテ感付キ、取敢ヘズ部落ノ中央ナル自衛團本部ニ於テ、片言ノ滿語ニテ事ノ概略ヲ語り、處置ヲ後日ニ約シ、月明ノ道ヲ急據分遣隊ニ歸隊セリ。時正ニ午前一時。

一同息セキ切ツテ歸隊シ見レバコハ如何ニ、「南二龍」ノ部落ハ平康徳ノ襲撃ヲ受ケ、已ニ掠奪セラレタル後ナリ。ノミナラズ殘置セル兵一名ハ、輕傷ヲ負ヒアル狀態ナリ。

K軍曹以下「四站」ニ出動直後、匪賊ハ豫メ定メタル方法ニ依リ、迅速ニ襲撃ヲ行ヒシモノナリ。匪襲ヲ察知シタル殘置セルS一等兵ハ、急ヲ中隊ニ電話報告スルト共ニ、他ノ四名ヲ指揮シ、分遣隊ヲ死守奮戦、能ク努メタレド、遂ニ一名ノ負傷者ヲ出スニ至レリ。此ノ間人少ノ事トテ、分遣隊ヨリノ出撃ハ、中隊長ヨリ電話報告時ニ於テ禁ゼラレ、分遣隊ノ死守ヲ命ゼラレタルナリ。

K軍曹以下ノ急據歸隊セルトキハ、已ニ敵ハ目的ヲ遂行シ逃走ノ後ナリキ。同軍曹ハ直ニ之ヲ追撃スベク決意シ、再ビ深夜ノ道ヲ敵ノ逃走方向ニ急追セリ。然レ共、不案内ノ地形ナリシ爲、遂ニ匪影ヲ發見スル能ハズ、涙ヲ吞ミテ歸隊セリ。

之ト前後シ、中隊ヨリハC特務曹長ヲ長トスル約三個分隊急援ニ來リシモ、前記ノ如クナレバ、止ムナク夜明ケヲ待チテ附近一帯ノ討伐ヲ實施スルコトニ決定、同夜ハ同分遣隊ニ於テ待機セリ。

翌日C特務曹長以下、「南二龍」一帯ヲ搜索セルモ何等獲ルトコロナカリキ。

右ノ事態ヲ考察スルニ、分遣隊長以下全ク匪賊ノ術中ニ陥リタルモノナリ。即チ匪賊ハ其ノ一名ニ滿警ノ制服ヲ着用セシメ、偽報ヲ以テ分遣隊員ヲ他方ニ連行シ、其ノ隙ニ乘ジ富有ナル「南二龍」ノ部落ヲ襲撃セ

0589

ルモノナリ。之ガ原因ハ、K軍曹以下ガ濫警ヲ過度ニ信用シ、其ノ態度行動等ヲ深ク注意スルコトナク、即時處置セル結果ナリ。此ノ時ニ於テ警察手牒ヲ提示セシムルカ、其他ノ方法ニ依リ、眞ニ濫警ナリトノ確認ヲ得タル後、處置スルノ著意アリセバ、斯ノ失敗ハ無カリシモノナリ。

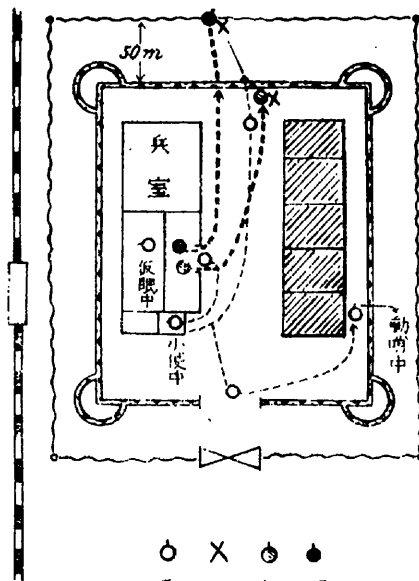
尙分遣隊ノ電話ヲ、匪賊ハ最後迄破壊セザリシハ一般ノ疑問トセシ所ナリ。

十二、逮捕匪賊ニ狎レ過ギ

油斷セシ爲兵器ヲ奪ハレントシタル例

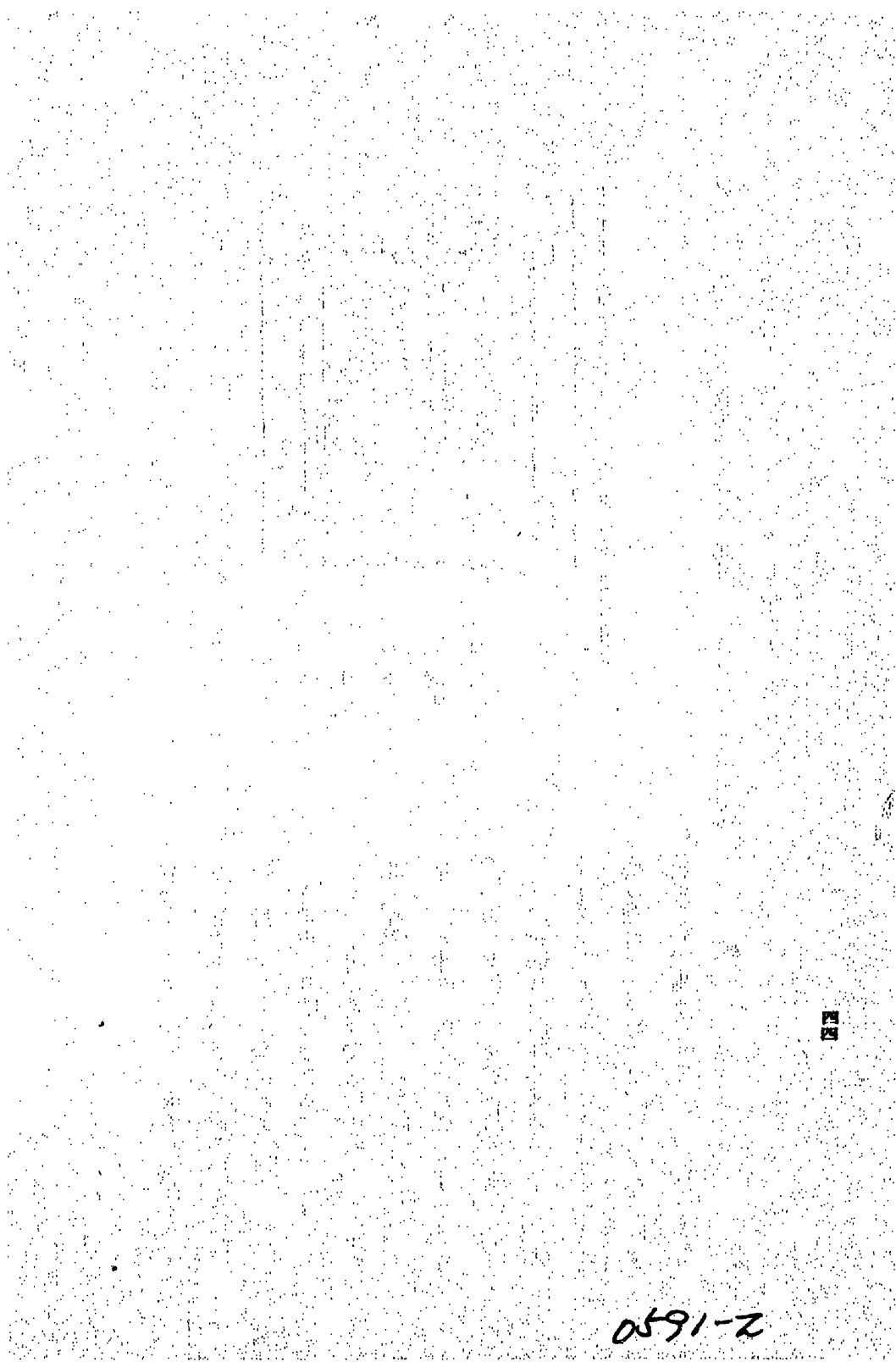
某驛分遣隊ニ於テ、匪賊小頭目ト其ノ部下一名ヲ逮捕シ、配屬憲兵ト連絡シ、殘匪索出ノ爲取調中、約一週間ヲ經過ス。當時分遣隊ハ某伍長以下六名、最初ハ之ニ對スル一般ノ監視モ至嚴ナリシモ、數日經過スルニ伴ヒ不十分トナリ、遂ニハ匪賊ト會話モナシ、段々慣レテ、晝間若干ノ使役ニモ使用シタリ。夜間ハ衛兵所ニ置キテ、兩手ヲ縛リ監視シ居リタルモ。某日夜、頭目ガ控兵某一等兵ニ對シ、「大君手ガ痛クテ堪ラヌカラ細ヲ少シ緩メテ呉レ」ト言葉巧ニ嘆願セリ。某一等兵最初ハ何ヲ言フカトバカリ肯ゼザリシモ、頭目ハ翌日ノ使役等種々話シタル後、屢々嘆願ヲ繰リ返セリ、某一等兵ハ慣レタルト巧言ニ「ツラレ」、細日ヲ若干緩メタリ。恰モ立哨ノ交代時ニシテ、其ノ儘立哨シ、下番者ハ控兵ノ起ルヲ待タズ使所ニ行キタリ。小頭目ハ

殺スルヲ得タルモ、夜半ナレバ或ハ逃走セツメタルヤモ知レズ。
 將來ニ於テ吾人ノ故モ注意ヲ要スベキ點ナリト認ム。



● 頭目
 ○ 部下
 X 射殺位置
 ○ 兵

好機逸スベカラズト、兩手ヲ繩目ヨリ拔
 キ、下番兵ノ銃、著劍ノ儘ヲ携へ、分遣
 隊ノ圍壁ヲ乘越へ逃走ヲ企ツ。
 立哨中ノ歩哨ハ之ヲ知ラズ。小便ヲ終
 リタル下番歩哨、衛兵所ニ歸ルヤ、部下
 匪一名兩手ヲ縛サレタル儘逃走中ヲ發
 見、直ニ非常ヲ速呼シナガラ追撃、部下
 匪ハ兩手ヲ縛サレテ居ル爲分遣隊圍壁内
 ニテ、小頭目ハ圍壁外鐵條網約五十米距
 タリタル所ニ於テ、辛ウジテ射殺シ、兵
 器ヲ奪還スルヲ得タリ。時恰モ午前四時
 附近ヲ視察出來得ル頃ナレバ、始メテ射



0591-2